

ふちゅう歴史散歩 Vol.161

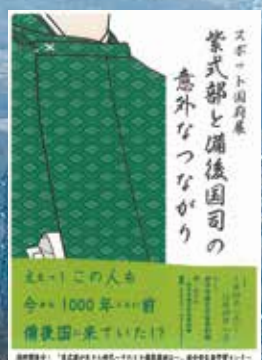
平安時代中期の備後国司



紫式部
(菊池容斎筆『前賢故実』)
国立国会図書館デジタルコレクションより

『源氏物語』を執筆した紫式部が生きていた平安時代中期は、仮名文学や寝殿造など日本独自の文化が発展していく時代です。当時、都の貴族が各国に国司として任命され統治にあたっていました。今回はこの時代に備後国府と関わりのある人物をご紹介します。

備後国府には、紫式部の高祖父の藤原元名や曾祖父の文範、叔父の理明などが備後の国司に任命されていたことが史料から分かっています。さらに藤原道長の曾祖父で摂関政治の基礎を築いた藤原忠平、道長の兄である藤原道隆、道長の権勢を支え



歴史民俗資料館にてスポット国府展「紫式部と備後国司の意外なつながり」を12月28日まで開催中。

た藤原行成などそうそうたるメンバーが国司に任命されており、備後国の重要性が伺えます。

当時の基本法などをまとめた『延喜式』には、国の格付けを「大・上・中・下国」と定めていました。その他文献史料には「熟国・要国」「亡国」という表記も見られます。備後国は「上国」であり「要国」とされていました。

国司になりたい貴族にとって、備後国の人気が高かったのは何故なのか。歴史民俗資料館のスポット国府展「紫式部と備後国司の意外なつながり」にて詳しくご紹介していますので、是非お立ち寄りください。

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見!

「上高祭」

高校生編 その118



投稿者(文と写真)
上下高校2年生
仲行 颯太さん

今年の文化祭は、「みんなにサチアレ上高祭」というテーマのもと、各学年・保護者が模擬店出店や出し物、有志発表を行いました。

1年生のお化け屋敷迷路は、中に入るととても怖い雰囲気にも私も本気で驚きました。2年生のフランクフルトと焼きそばは、味の良さはもちろん受付の人の丁寧な対応に、来店された皆さんに好評でした。3年生は今年が最後の文化祭で、とても張り切っているのが伝わりました。揚げたこ焼きと唐揚げは、大人気ですぐに売り切れてしまうほど美味しく、提供スピードも早くさすが3年生という印象でした。生徒会は、

子ども連れに楽しんでもらえるように用意した射的とお面屋がとても人気でした。フォトスポットはスーパーマリオの世界を再現しており、多くの来場者に写真を撮ってもらえました。有志発表では内容が面白く、観客を楽しませていました。全体を通して、生徒全員がそれぞれの役割を果たし、みんなが楽しめ、充実した文化祭になったと思っています。来年も、生徒一丸となって来場される皆さんに楽しんでもらえるものにしていきます。



公式SNS



LINE



Facebook



Instagram



メール



府中市メール配信サービス



スマホアプリ My府中



iPhone



Android